図書室だより

２０２５・秋（読書週間）号

中学版

日に日に秋が深まってきましたね。
２７日から全国読書週間が始まります。

今年の読書週間の標語のように、秋の夜は本を読んで、こころとあたまの深呼吸をしてみませんか。

今年の読書週間標語
『**こころとあたまの、深呼吸。**』

図書委員（高校２年生）が作ったおすすめ本のPOPや、ハロウィンの飾り付けを展示しています。

『ぼくたちの卒業写真』

天川栄人／著
文研出版

「卒業アルバムの個人写真、もっと自由に撮らせてくれん？」
蔵木のもとに星野が提案してきた。一人ひとりの個性が光る、自由な写真が並ぶ卒業アルバムにしたいというのだ。実家が写真館で、自身もプロ並みの写真技術を持つ蔵木は、しぶしぶながら、その撮影を引き受けることに。人との関わりが苦手な蔵木だが、シャッターを切るうちに、同級生たちの意外な一面が見えてきて……

『クマはなぜ人里に出てきたのか』

永幡嘉之／文・写真
旬報社

クマが市街地に出没したり、クマによる人身事故のニュースが毎日のように流れている。いったい何が起きているのでしょうか？
ツキノワグマの調査・撮影を長年続けてきた著者が、クマの棲む山岳から里山を調べ歩いて見えてきたものとは。

『アクセサリーからスマホケースまで はじめてのキャップアート』

CAP AKIRA TOKYO／著
大和出版

飲んだら捨てられてしまうペットボトルのキャップ。キャップアートとは、このキャップを使って、アクセサリーや雑貨、インテリアなどを自由に作るアートです。作るために必要な道具は、キャップ、アイロン、ハサミ、アイロン台、クッキングシートだけ。透明感があって、とても素敵ですよ。

『蒼天のほし』

いとうみく／著
双葉社

学校の授業の一環で、職場体験先に「子どもとあそんでいればいいってこと？」と安易な気持ちで保育園を選んだ、中二の風汰の五日間を描いた『天使のにもつ』のその後の物語。
二十二歳になった風汰が保育士として成長していく物語。

『虫たちの生き方事典』

小松 貴／文・写真
じゅえき太郎／イラスト
文一総合出版

虫たちは、自然界では小さくて弱い存在。それでも、襲い来るきびしい自然環境や天敵の攻撃に負けないよう、それぞれの種類が進化の道のりの中で生き残る方法を手に入れてきた。
虫ってホントにすごい！

人気シリーズの続巻入っています♪

『りゅうおうのおしごと（２０）』

遂に完結！

『サイレント・ウィッチ（５）』

『ワンダンス（８）』

不器用な言葉より、踊ることで伝わる想いがある。静かで熱い高校生の青春。コミック。